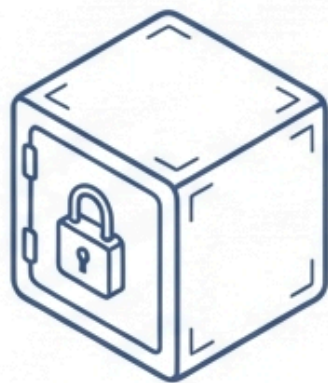


Vision AI Explorer Pro

企業向け次世代AI統合プラットフォーム —
「実務で使えるAI」のアーキテクチャと24時間リアルタイム監視への進化

汎用AIから「実務で使えるAI」へのパラダイムシフト

世の中には優秀な生成AIが存在しますが、そのまま業務に組み込むには「3つの壁」が存在します。



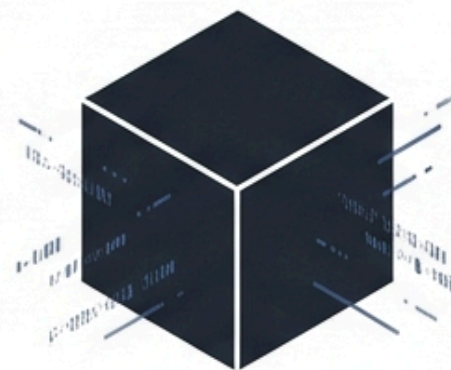
壁1：自社を知らない

一般的なAIは、社外秘のルール、マニュアル、過去の議事録などの「企業固有の文脈」を持っていません。



壁2：現場（動画・音声）を見られない

数GBに及ぶ工場の監視カメラや長時間の会議音声を丸ごと解析しようとする、莫大なインフラコストとメモリ制限の壁に直面します。



壁3：運用が見えない（ブラックボックス）

情報システム部門が最も懸念する「コスト（利用回数）」「安全性（エラー率）」「速度（レイテンシ）」を監視する仕組みがありません。

企業がAIに求める「3大要素」の統合

本プラットフォームは、単なるチャットツールではありません。
企業が真に求める3つの能力を1つのコマンドセンターに統合しています。

• VLM（視覚・聴覚のAI）

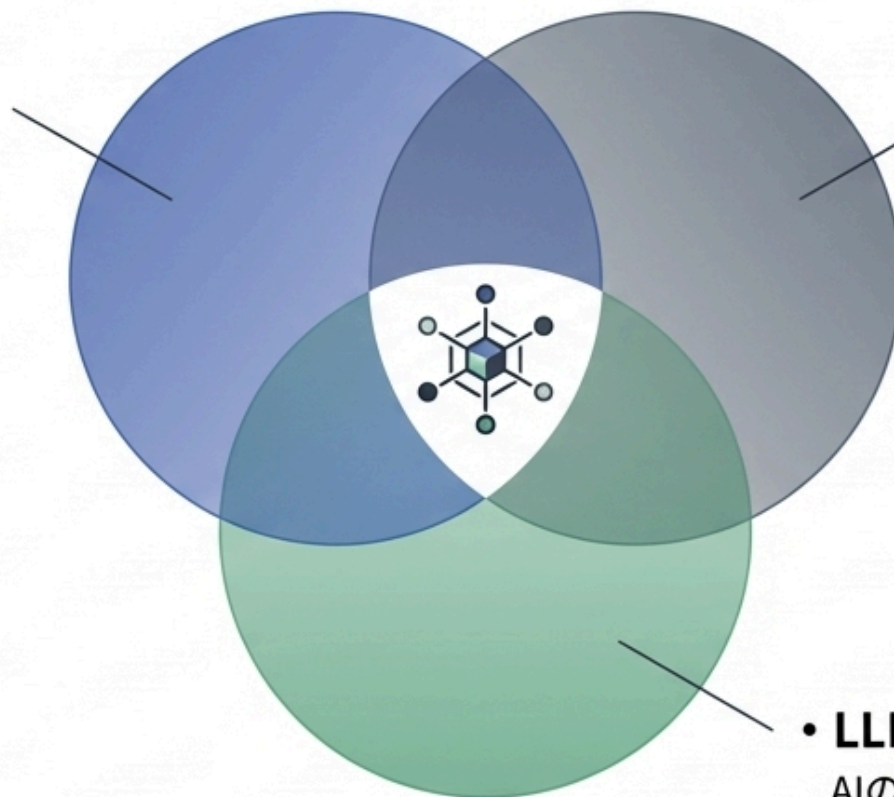
AIに「目」と「耳」を与え、現場のマルチモーダルデータを高度に解析。

• RAG（独自データの拡張）

AIに「自社の社外秘マニュアル」を読ませ、精緻な固有要件に対応。

• LLMOps（AIの運用監視）

AIの働きぶりをシステム管理者がモニタリングする「管理職用ダッシュボード」。

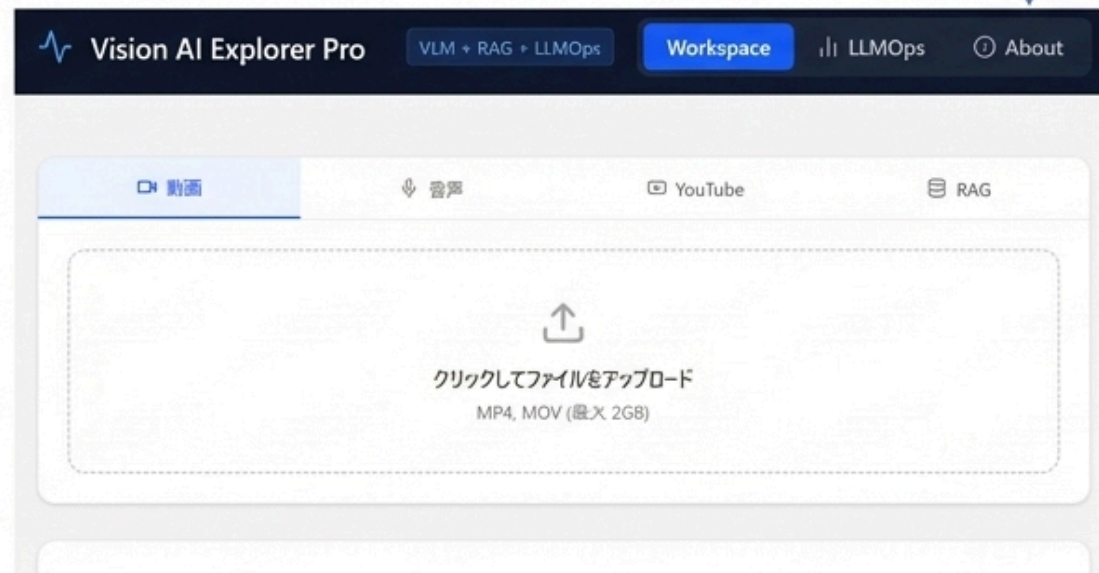
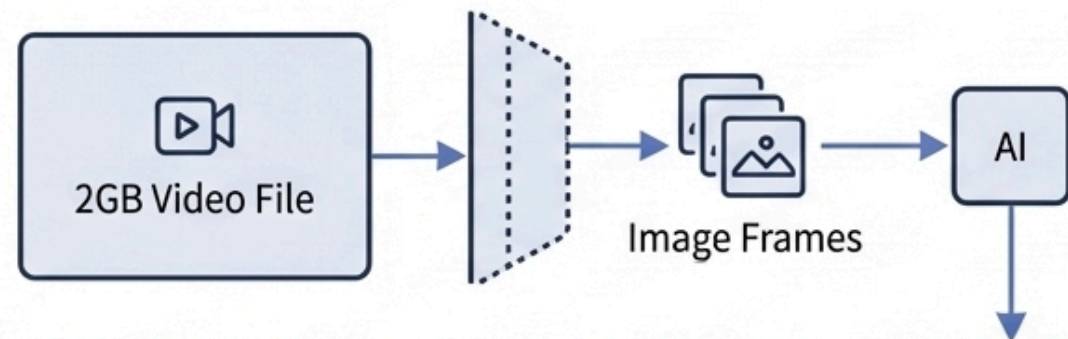


要素1：VLM（Vision-Language Model） — 「目」と「耳」による圧倒的コスト削減

最大2GBの大容量動画や音声ファイルを解析可能。タイムスタンプの自動付与や、異常に対する優先度（高・中・低）、次のアクション提案まで行います。

最も重要なビジネス価値：インフラコストの回避

数GBの動画をそのままサーバーに送るとコストが破綻します。本アプリは「ブラウザ側で動画から画像を切り出して（キーフレーム抽出）AIに送る」という賢い仕組みを実装。これにより、劇的なインフラコスト削減と長時間の事後解析を両立しています。



要素2：RAG（Retrieval-Augmented Generation） — 「自社の専門家」への進化

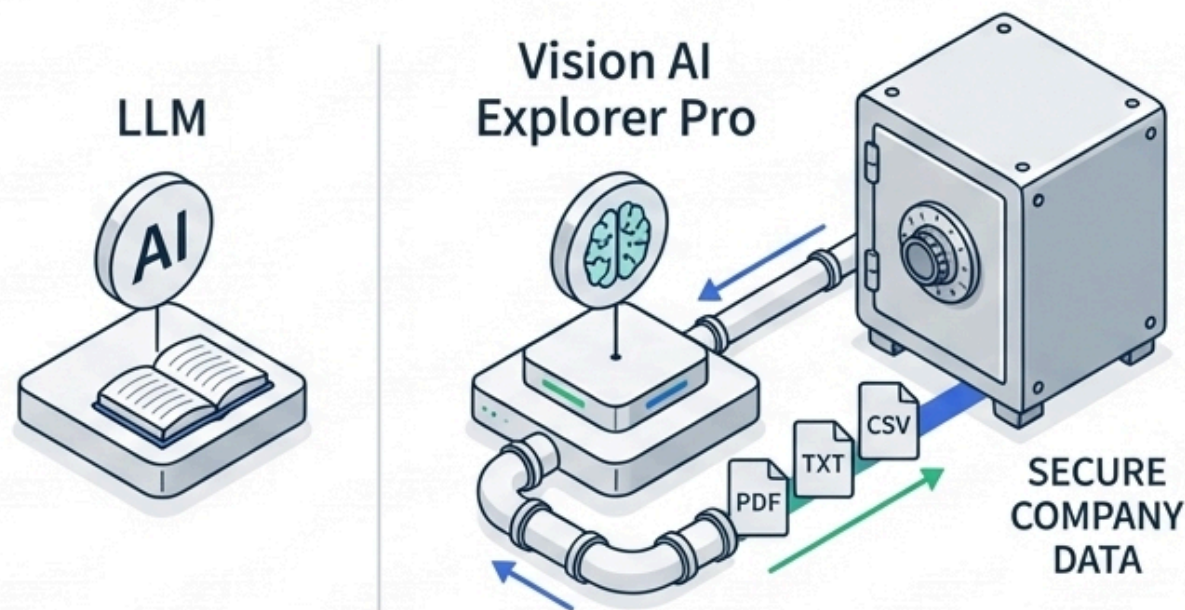
エンタープライズAI市場で現在最も需要が高い領域です。一般的な回答ではなく、企業固有のデータに基づいた正確な回答を生成します。

・ナレッジベースの即時構築

PDF、TXT、CSVなどのドキュメントをアップロードするだけで、AIが社内文書やマニュアルを読み込みます。

・実務での活用例

「一般的な安全基準」ではなく、「自社の工場の安全マニュアル第3版」に照らし合わせて、動画内の危険行為を指摘させることが可能になります。



要素3：LLMOps（LLM Operations） — 本番運用のための「管理職ダッシュボード」

AIを「ただ使う」だけでなく、ビジネス環境で「安全かつ効率的に運用・管理」するための基盤です。

- **Total Inferences（総推論回数）**

AIを何回実行したかを示す、利用コストの目安。

- **Success Rate（成功率）**

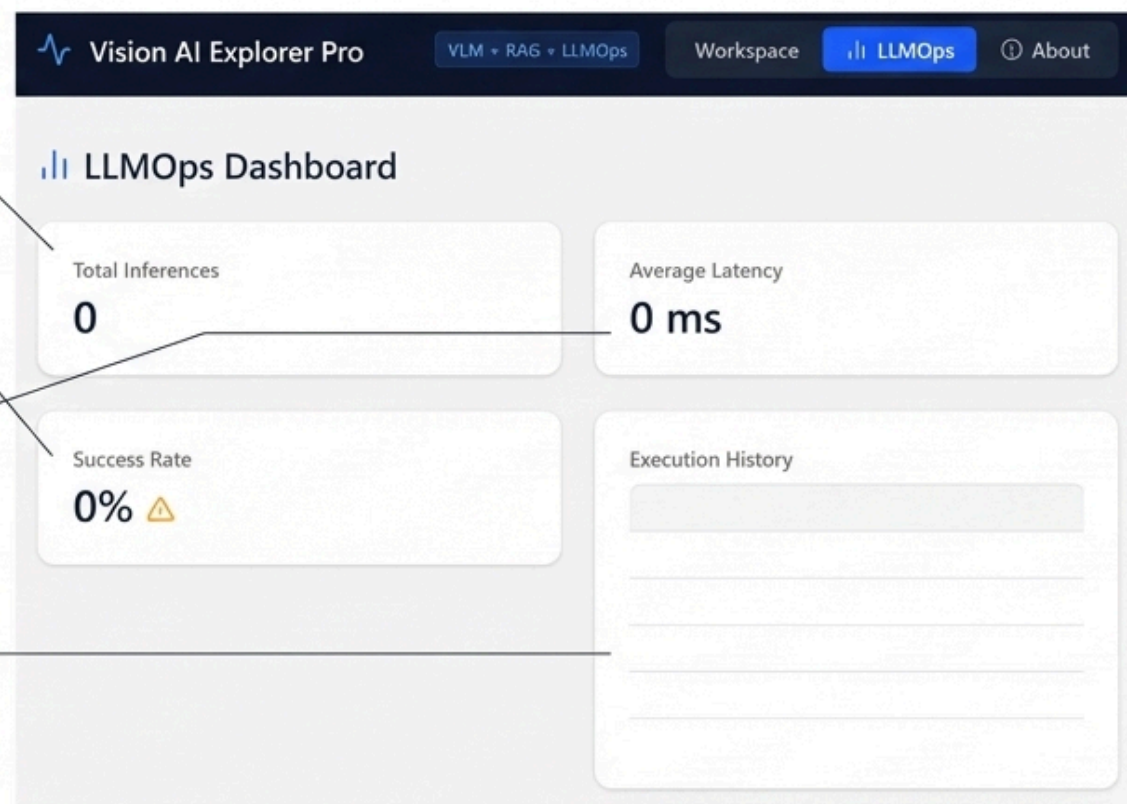
エラーなく正常に処理できた割合。システムの安定性の指標。

- **Average Latency（平均応答速度）**

1回の解析にかかる時間。パフォーマンスの指標。

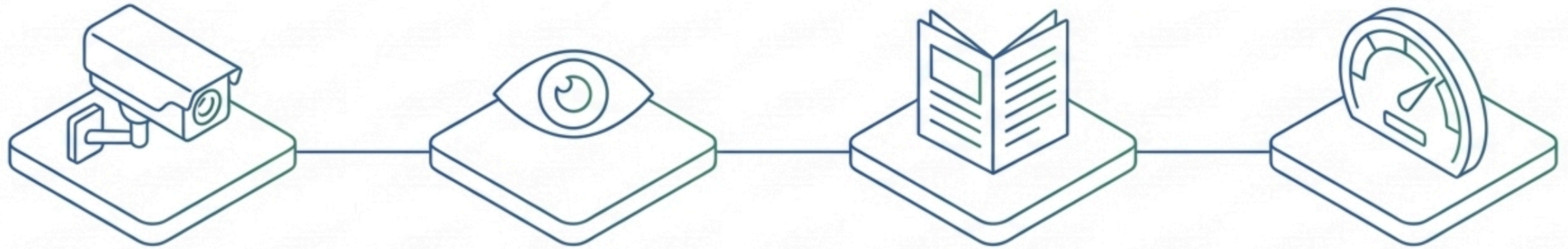
- **Execution History（実行履歴）**

いつ、どんなプロンプトを投げ、何秒かかったかをすべてログとして記録。エラーの原因究明を容易にします。



統合の力（Synergy）：3つの要素が組み合わさると何が起こるか？

個別の技術ではなく、これらが「1つのコマンドセンター」で連動することに真の価値があります。



Step 1: 【VLM】

工場の監視カメラ映像から、危険行動のキーフレームを自動抽出。

Step 2: 【RAG】

自社の「安全基準マニュアル（PDF）」と照らし合わせ、ルール違反を特定してアラート発報。

Step 3: 【LLMOps】

その全稼働記録、処理速度、APIコストをダッシュボードで情シス部門がリアルタイム管理。